



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1996, 67(2)

ISSUE DATE:

1996-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/95935>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成8年11月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第67巻 第2号

ISSN 0525-2997

vol.67 no.2

物性研究

1996 / 11

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 63 (1994), 1. のように引用して下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 63 (1994), 1. のように引用して下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

掲 示 板

「修士論文」募集

例年、本誌では、各大学の物性分野の修士課程修了者の研究内容を紹介しています。本年も1996年度の修士論文を募集します。学術的に価値の高いもの、研究内容がユニークで面白いもののほか、研究は完成していないが今後に興味ある問題提起を含むものや、Review 的な力作など、特色のある修士論文を投稿して下さい。

1. 募集締切： 1997年3月31日（月） [締切厳守]
2. 自薦、他薦は問いません。また、教室の推薦を歓迎します。
3. 論文のコピーを2部 お送り下さい。
4. 4月以降の連絡先を明記して下さい。

紙数の許す限り掲載したいと思いますが、掲載の可否については編集委員会にご一任下さい。昨年場合は、判断基準として、論文の内容および分野間のバランス等を考慮しました。尚、掲載が決定した論文については、次のような対応を取らせていただきます。

1. 原則として、英文の修士論文は日本語に訳していただきます。
2. 枚数の多いものは、簡潔な内容に縮めていただく場合や、写真印刷の都合上、体裁を整えていただく場合があります。
3. 掲載された論文の著者には別刷50部、無料で差し上げます。

「講義ノート」募集

本誌では、大学院特別講義の「講義ノート」を随時、受け付けています。これまで一部の大学に限られていましたが、卒を広げ全国の大学で行われる、物性関係の興味ある講義のノートを掲載したいと思います。つきましては、関係各位の方々に講義ノートの作成について御尽力をお願いします。

通常、大学院生にノートをとっていただき、講師のチェックの後、掲載しています。講師には別刷50部を寄贈し、ノート作成者には薄謝と別刷20部程度を差し上げています。講師の了解などはこちらで交渉致します。また、退官記念講演なども、歓迎します。内容と記録の可能性を考慮して、推薦もしくは投稿下さるようお願いいたします。

科研費基盤研究報告書の転載について

「物性研究」では、科研費基盤研究の報告書を本誌に転載したいと思います。研究成果報告として、立派な報告書が作成されても、限られた部数が関係者のみに配布される状況では、誰もが手軽に見ることが出来ません。また、そういった形の報告書は四散して失われる危険も大きく、本誌のような定期刊行物に掲載されれば、公開、保存のいずれにおいても意味があります。つきましては、ご投稿あるいはご推薦下さいますようお願いいたします。

既に印刷済みの報告書2部を、転載を希望される部分を明示の上、お送り下さい。別刷はお渡ししないことになっておりますが、もし希望の場合は、部数をご連絡下さい。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

[問合せ&送付先]

〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物 性 研 究 刊 行 会

Tel: (075)753-7051, 722-3540

Fax: (075)722-6339

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

「講義ノート」募集

本誌では、大学院特別講義の「講義ノート」を随時、受け付けています。これまで一部の大学に限られていましたが、卒を広げ全国の大学で行われる、物性関係の興味ある講義のノートを掲載したいと思います。つきましては、関係各位の方々に講義ノートの作成について御尽力をお願いします。

通常、大学院生にノートをとっていただき、講師のチェックの後、掲載しています。講師には別刷50部を寄贈し、ノート作成者には薄謝と別刷20部程度を差し上げています。講師の了解などはこちらで交渉致します。また、退官記念講演なども、歓迎します。内容と記録の可能性を考慮して、推薦もしくは投稿下さるようお願いいたします。

科研費基盤研究報告書の転載について

「物性研究」では、科研費基盤研究の報告書を本誌に転載したいと思います。研究成果報告として、立派な報告書が作成されても、限られた部数が関係者のみに配布される状況では、誰もが手軽に見ることが出来ません。また、そういった形の報告書は四散して失われる危険も大きく、本誌のような定期刊行物に掲載されれば、公開、保存のいずれにおいても意味があります。つきましては、ご投稿あるいはご推薦下さいますようお願いいたします。

既に印刷済みの報告書2部を、転載を希望される部分を明示の上、お送り下さい。別刷はお渡ししないことになっておりますが、もし希望の場合は、部数をご連絡下さい。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

[問合せ&送付先]

〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学 湯川記念館内
物 性 研 究 刊 行 会

Tel: (075)753-7051, 722-3540

Fax: (075)722-6339

E-mail: busseied@yukawa.kyoto-u.ac.jp

編集後記

教養部改組の嵐が全国の大学で吹きまくり、ある大学では独立した学部として、あるいは語学等の共通教育のセンターとしてスタートし、またある大学では既存の各学部合流するという形で改組が進められた。これらの改組が21世紀の高等教育にどのような影響を及ぼすのか、評価は将来に委ねられている。筆者の個人的な感想は、大学がuniversityとしての一体感をもつのに教養部の果たしてきた役割の大きさを、改組されて初めて知ったということである。

我々の大学では夏休みの終わりに、全学部からの教官が二日間比叡山にこもり、大学での教育についての討論会が開催された。一般教育に対する総長の強い危機感を反映したものである。会議では語学教育を中心に全学共通科目の現状について報告され、学部間あるいは教官個人間の意見交換が為された。現時点では、特に大きな進展があったというわけではないが、同一の職場におりながら意志疎通が殆どないという状況に風穴を開けたことは確かである。

閉会の辞で総長や来賓から、大学において教官の評価は研究に対して行われているが、今後は教育も評価対象にするべきであり、そのためには教育評価の物差しを作る必要があるという提案が為された。筆者は、極めて教育熱心な先生に育てられたので少なからず驚いたが、何か物差しが必要なことには賛成である。会議終了後に同世代の人たちとビールを飲みながら、その物差しについて話し合った。そこでは、講義に関する評価の物差しは、受講する学生の数ではなく、回数を重ねても学生があまり減らないこと、即ち減衰係数が如何に小さいかということになった。もっと別の観点からの物差しもあるかと思いますが、皆さんのご意見は如何でしょうか。

(M. Y.)

物 性 研 究 第67巻第2号 (平成8年11月号) 1996年11月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

編集後記

教養部改組の嵐が全国の大学で吹きまくり、ある大学では独立した学部として、あるいは語学等の共通教育のセンターとしてスタートし、またある大学では既存の各学部合流するという形で改組が進められた。これらの改組が21世紀の高等教育にどのような影響を及ぼすのか、評価は将来に委ねられている。筆者の個人的な感想は、大学がuniversityとしての一体感をもつのに教養部の果たしてきた役割の大きさを、改組されて初めて知ったということである。

我々の大学では夏休みの終わりに、全学部からの教官が二日間比叡山にこもり、大学での教育についての討論会が開催された。一般教育に対する総長の強い危機感を反映したものである。会議では語学教育を中心に全学共通科目の現状について報告され、学部間あるいは教官個人間の意見交換が為された。現時点では、特に大きな進展があったというわけではないが、同一の職場におりながら意志疎通が殆どないという状況に風穴を開けたことは確かである。

閉会の辞で総長や来賓から、大学において教官の評価は研究に対して行われているが、今後は教育も評価対象にするべきであり、そのためには教育評価の物差しを作る必要があるという提案が為された。筆者は、極めて教育熱心な先生に育てられたので少なからず驚いたが、何か物差しが必要なことには賛成である。会議終了後に同世代の人たちとビールを飲みながら、その物差しについて話し合った。そこでは、講義に関する評価の物差しは、受講する学生の数ではなく、回数を重ねても学生があまり減らないこと、即ち減衰係数が如何に小さいかということになった。もっと別の観点からの物差しもあるかと思いますが、皆さんのご意見は如何でしょうか。

(M. Y.)

物 性 研 究 第67巻第2号 (平成8年11月号) 1996年11月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200円

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類 (請求、見積、納品書) が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より 6 ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
電話 (075) 722-3540, 753-7051
FAX (075) 722-6339

物 性 研 究 67-2 (11月号) 目 次

○講義ノート

「第41回 物性若手夏の学校」(1996年度)..... 129

○掲示板..... 253

○編集後記..... 255

物 性 研 究 67-2 (11月号) 目 次

○講義ノート

「第41回 物性若手夏の学校」(1996年度)..... 129

○掲示板..... 253

○編集後記..... 255